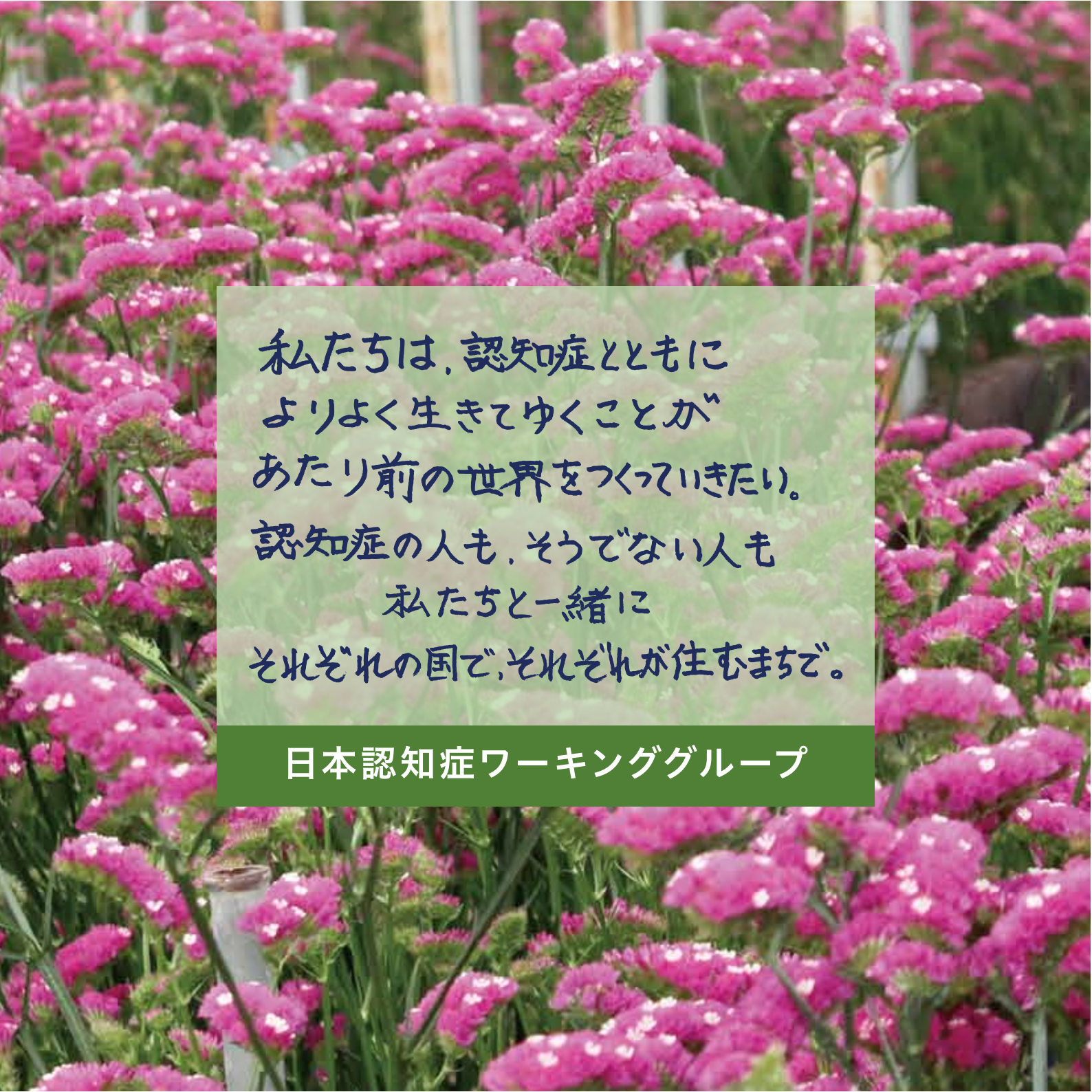




私たちは、認知症とともに
よりよく生きてゆくことが
あたり前の世界をつくりたい。
認知症の人も、そうでない人も
私たちと一緒に
それぞれの国で、それぞれが住むまちで。

日本認知症ワーキンググループ

目的

認知症になってから希望と尊厳をもって暮らし続けることができ、
よりよく生きていける社会を創りだしていくこと。

ミッション

- 全国、各地域の認知症の本人の声を集約し代弁
- 認知症の本人に関係する政策・施策への提案とフォロー(モニタリング)
- 社会の認識を変えていく(偏見・差別の解消)
- 認知症の本人の生きる希望や力を高める等

【設立にいたる経緯】

○2004年ごろ～：カミングアウトと当事者発信の始まり

認知症の当事者がカミングアウトし、公の場で自らの体験を語り、暮らしやすい世の中に向けた提案を行う動きが、国内各地でさざ波のように広がる。

○2011年～：個別発信から共同での活動へ

2011年9月 当事者3人と関係者が呼びかけ、認知症当事者研究勉強会がスタート。

2014年9月 勉強会をベースにしつつ、認知症の当事者が「呼ばれて話をして終わりではなく、自分たち自身が積極的につくる活動を」「認知症とともにによりよく生きる姿を自分たちがしめしていこう」とワーキンググループ立ち上げの準備会を開催。その直前にNHKが放送したスコットランド認知症ワーキンググループ(SDWG)の番組が大きな呼び水となる。

○2014年10月：国内各地からメンバー(本人)11名、パートナー(本人とともに活動)13名にて発足。 英文名は、Japan Dementia Working Group(略称 J DWG)

主な活動

1. メンバーの意見を集約し、厚生労働省へ提案
新オレンジプラン(認知症施策推進総合戦略)に「本人の意思の尊重」「本人の視点重視」が明示され、自治体の施策立案や評価に本人参画を進める計画が打ち出される(2015年1月)
2. 自治体、メディア、学会、事業者団体等と協力して、全国各地で当事者発信
(講演会、テレビ、新聞、雑誌等)
3. 社会の重要なトピックスに関して意見集約し、厚生労働省やメディアに発信
(例: 鉄道事故の最高裁判決)
4. 厚生労働省や自治体の各種事業等へ、メンバーが委員として参加
5. 全国規模のミーティングの開催(東京、鳥取)
6. 毎月定例の小ミーティングの開催
7. ADI国際会議2017(京都)の準備に当事者組織として参画
8. JDWG通信(随時)



写真は、スターチスの花
(提供 和歌山県御坊市)

スターチスの花言葉は、
「変わらぬ心」「途絶えぬ記憶」

表紙メッセージは、
日本認知症ワーキンググループ
(JDWG)メンバーによる書

発行日

2017年4月

日本認知症ワーキンググループ

ホームページ

<http://www.jdwg.org>

メール

contact@jdwg.org

本リーフレットは、

日本イーライリリー株式会社の

協賛により制作しました。

